



Ofsted 監査結果について《お知らせ》

校長 佐藤雅彦

先月6月6日～6月8日の3日間、英国の公的機関である Ofsted (英国教育水準局) による監査が実施され、正式結果が7月18日(火)に本校へ届きました。その内容は、Ofsted HP、及び本校 HP において公表されるものです。既に確認を済ませましたので、その概要につきまして、保護者様、関係者の皆様にお知らせします。

本校は、英国における私立学校として認可されており、英国の定めた”Independent School Standards” に従う必要があります。この Ofsted 監査は、学校がそれらの基準に適合しているかを確認するものです。

結果はこれまでと同様に、4つの観点と総合の5項目、それぞれ Outstanding(優) > Good(良) > Requires improvement(要改善) > Inadequate(不十分) の4段階にて評価されています。

今回の監査評価は、

The quality of education【教育の質】	: Outstanding(優)
Behaviour and attitudes【児童生徒の行動と態度】	: Outstanding(優)
Personal development【個人の伸長】	: Good(良)
Leadership and management【リーダーシップとマネジメント】	: Inadequate(不十分)
Overall effectiveness【全体】	: Inadequate(不十分)

です。今回、前々回の2018年監査から学校を挙げて教員チームが取り組んできた児童生徒の教育に関わる3項目については、Outstanding 2つ、Good 1つという極めて高い評価を受けました。一方で、前回、前々回監査からの課題でもあった学校管理の面では、後述しますがこれまでの監査では指摘の無かった着任後の無犯罪証明書の取得や、運営

委員会の学校経営に係るリーダーシップ、児童生徒のセーフガーディングについてなどの指摘がありました。そして、全体的な評価は、4観点の中の最も低い段階をそのまま引きずり示すことになり、Inadequate(不十分)とされました。

御承知のとおり、ロンドン日本人学校は英国の地で日本の文部科学省が定めた学習指導要領に則り、教育課程の実践を進める学校です。一方で、英国での私立学校という立場から、学校の管理体制や教育課程も、日本とは全く異なる英国の独立学校基準に適合させる必要があります。

本校ではこの数年間、英国の教育で特に重視されている部門である児童生徒の Safe-guarding、SEN (Special Educational Needs)、Equality Act 2010 (2010年平等法) 対応、PSHE (Personal, Social, Health, and Economic) 教育、British Value (民主主義・法の尊重・個人の自由・宗教に対する寛容等、上記 Equality Act 2010 も含まれる) 等についての取組を進めてきました。また、学校の管理についても、英国で要求される種々の管理体制の整備として実務的な執行委員会を新たに立ち上げ、学校運営委員会が学校をチェックする仕組みの導入等を進め、実践してきたところでした。

3日間の監査では、監査官と、学校運営委員や事務局長、校長との面談だけでなく、教員や事務局職員などの学校スタッフとの面談、小学部児童や中学部生徒の集団との面談、エビデンスとなる各種の資料確認など、幅広く情報収集が行われました。面談を行った後に聞き取りをしたところ、学校職員も児童生徒も、それぞれに的確な対応ができたものと捉えています。

また、急遽お願いをした保護者向けのアンケートについては、前回を超えて、195件もの返信があったと聞いており、そのどれもが「学校の取組みに対して肯定的で、協力的である」との評価を監査官からいただきました。

一つ一つの観点評価について、その概要を記します。

◇【教育の質】：Outstanding（優）

- ・学校リーダーは、その責任において質の高いカリキュラム（教育課程）を編成し児童生徒に提供しており、教科の枠を超えてどのような知識を学ばなければならないかについて、全教職員で十分な検討がなされ、協力して取り組んでいる。
- ・カリキュラムは、教えるべき知識や技能、学習意欲の涵養を段階的に示している。
- ・児童生徒は、優れた成績を収め、幅広い教科の詳細な知識を習得している。
- ・教員は、教科に関する幅広い専門知識をもっていて、カリキュラム遂行のために質の高い様々な教材を利用できるように準備しており、児童生徒に新しい学習内容を明確に指導している。
- ・教員は、児童生徒が既習事項を復習する機会を多く設けていて、これにより重要な知識を定着させることができている。
- ・教員は、児童生徒の障がいや特別な教育的ニーズを把握し、支援するための適切なシステムを構築し実践している。
- ・学校リーダーは、児童生徒の学習を豊かにし、深めるために、ロンドンだからこそ提供できる多くの活動をカリキュラムに取り入れている。
- ・スコットランドや英国各地への教育旅行など児童生徒の異文化理解を進め、文化的な経験を重ねられるよう、慎重に計画されている。
- ・カリキュラムに取り入れられた英国文化施設等への校外学習、課外活動として取り組まれている様々なスポーツや音楽・美術等の部活動は児童生徒の人格形成に有効である。
- ・PSHE 教育はよく練られ取り組まれており、児童生徒がより広く社会について理解できるよう、様々なトピックと関連付け教えられていて、多様な信仰や文化、犯罪等についても学んでいる。
- ・人間関係と性教育へのアプローチについては、法定ガイダンスが十分に考慮されている。
- ・英語を母国語としない児童生徒が大部分だが、学校リーダー、英語教育指導者は、包括的で意欲的な英語カリキュラムを編成し、提供している。
- ・英語教育指導者は、児童生徒が効果的に知識を

身に付けられるよう、必要な専門知識をもっている。リーディングの指導では児童生徒が正確に、そして流暢に読むことができるよう、フォニックスを取り入れている。

・教育の質の向上に関する指導者の願いは、学校全体で一貫して実現されている。

◇【児童生徒の行動と態度】：Outstanding（優）

- ・教員は、児童生徒がどのように行動することが誠実であるのか、どのようにすれば社会に対して積極的に貢献できるかを指導している。
- ・児童生徒は、登校することを楽しんでいる。このことは非常に高い出席率にも表れている。
- ・児童生徒は、他に対して親切であり、転入生に対してのサポートを欠かさない。
- ・児童生徒は、何か心配なことがあればすぐに信頼できる教員に相談できることを知っている。
- ・児童生徒は、自分の通う学校を大切にし、誇りに思っている。このことは、毎日取り組まれる清掃活動の様子からも分かる。
- ・各クラスルームの雰囲気からは、強い向上心が感じられる。児童生徒の間では、成果を上げるために努力することが期待され、日常的に積極的な授業参加が行われている。この姿勢は、児童生徒の学業成功に大きな役割を果たしている。
- ・児童生徒は、自治的活動等でリーダーシップを発揮している。例えば、環境委員会は学校入り口にウエルカムガーデンを設置し、植栽した。
- ・児童生徒の行動と態度の向上に関する指導者の願いは、学校全体で一貫して実現されている。

◇【個人の伸長】：Good（良）

- ・教員は、児童生徒の個人的成長をサポートするために、多くの充実した機会を提供しており、また、個々人の行動にも注意をはらっている。
- ・学校リーダーは、児童生徒の才能や興味を伸ばし育む機会を優先していて、例えば、全ての児童生徒を対象にした写生大会を毎年開催している。
- ・教員は、児童生徒に有益な進路ガイダンスを提供している。
- ・中学部生徒には、職場体験の機会がある。
- ・教員は、児童生徒が適度で合理的なワークバランスを保てるように配慮し、計画実施している。

◇【リーダーシップとマネジメント】:Inadequate(不十分)

・学校運営委員は短期的に変わり、また、校長、教頭も数年のうちに帰国し、新しい者と交代する。運営委員会による学校の監督に継続性を確保するため、規定が必要である。

・運営委員、学校管理職員が交代した際に、効果的且つ有益な引継ぎを行うための戦略や手順の整備が必要である。

・英国の独立学校に関する法的義務について、運営委員や学校管理職員が、着任後直ぐに知識を得ることができるような仕組みが必要である。

・セーフゲーディングについては、新しい職員の採用プロセスとして、児童生徒を前にして働くのに適しているかの審査プロセスが弱い。英国の学校で働くためには、渡英前の国に加え、英国の Disclosure Barring Service (DBS) のチェックを完了する必要がある。また、運営委員会のメンバーの適性をチェックする際にも、法定のガイダンスに従う必要がある。

・DSL、DDSL 等のセーフゲーディングリーダーは、最新の法令ガイダンスに精通するために、新しい知識を率先して学び、全ての教職員がその知識を身に付けるよう還元する必要がある。

・教職員は、最新のセーフゲーディングについて学び、児童生徒が危険にさらされる可能性のあるリスクを十分に理解することが必要であり、あらゆるタイプの潜在的な保護上の懸念に注意するために、必要な知識を身に付けるようにしなければならない。

・教員は、児童生徒が直面する可能性があるネット内でのいじめや搾取等の様々なリスクについて、保護ガイダンスを読むなどして学んでいるが、最新のものに関しての理解は不十分である。

・児童生徒は、インタビューで、何か心配なことがあれば信頼できるスタッフに話すと答えた。

・カリキュラム (PSHE 関連) を通して、児童生徒は様々なリスクと、自分の生活を守る方法について学んでいる。これには、健康、薬物やアルコールの乱用、精神衛生、ネット上での安全などについてのセッションが含まれている。

・健全な人間関係の築き方や他に同意をしていく方法等についても学んでいる。

・当校の児童生徒の安全保護の方針は、ウェブサイトで公開されている。

実は、2018 年前々回監査において、Leadership and management 【リーダーシップとマネージメント】の観点で、今回と同じく Inadequate (不十分) の評価を受けました。そこから学校改善策に基づいての取組みを続け、前回の 2021 年監査、同観点では Requires improvement (要改善) と一歩向上したのです。その際は、防火扉等、校舎の防火管理体制についての指摘が大部分だったのですが、昨年5月の進捗監査ではその点をクリアし、同8月に「英国インデペンデントスクールの基準を満たしている」という通知をいただきました。しかしながら、今回はこれまで指摘されていなかった英国の DBS 取得 (日本からの着任ではこれまで日本の無犯罪証明のみ) や、セーフゲーディングの研修強化等が指摘されました。さらには、課題となっていた運営委員会のリーダーシップの在り方や、運営委員や学校管理職員の任期と交代時の引継ぎ等が取り上げられました。

残念ながら 4 観点の評価全てにおいては、Outstanding や Good とはならなかった今回の監査結果ですが、教育に関する 3 項目においては、前回 2021 年監査よりも前進を果たしました。関係の皆様、保護者の皆様の御理解と御協力に、心より感謝申し上げます。

監査結果を細かに読んでいくと、日本と英国の文化の違い、価値観の相違といったものを感じる場所もありますが、結果は結果として重く受け止め、早急に改善策を検討し講じていかねばなりません。日本と英国、教育に関する両方の基準を満たし続けることは簡単なことではありませんが、教職員一同、この地で学ぶ児童生徒のために引き続き努力してまいります。

[ロンドン日本人学校公式 Blog](#)

ロンドン日本人学校の“今”を伝える
公式 blog を御覧ください。

